

第5学年 国語科学習指導案

1 単元名 意見を整理しながら、目的に向かって話し合おう 「失敗をめぐって」

2 指導観

○ 本学年の子どもたちは、日頃から学級会や集会の計画、学習などを通して話し合いをする機会が多い。話し合いについての意識調査では、「学級会に進んで参加していますか」という質問に対して「とても積極的に参加している」が34.8%、「だいたい積極的」が28.3%、「あまり積極的でない」が32.2%、「積極的に参加していない」が4.5%であった。このことから、学年の三分の二の子どもが積極的に話し合いに参加しているが、三分の一の子どもは、積極的に参加していないことがわかる。

これは、意見は活発に出しているが、各自の意見を述べ合うにとどまってしまう、話し合いが深まらないまま安易に多数決で結論を出す場合が多いなど、話し合いの仕方が身に付いていないために発言しても考えが生かされない場合が多く、話し合いへの意欲が減退したことが要因の一つと考えられる。また実態として、発言する子どもが固定している、話し合いに受け身的であるなど、みんなで考えを作り上げるという雰囲気にまだ達していない。

○ 本単元は、目的に向かって計画的に進める話し合うことができるようにすることをねらいとしている。計画的に話し合うとは、ここでは①話し合いの目的と方法を確認する②話し合いの体験を出し合う→③体験の要因について類似点を見だし、分類・整理する→④重要度、難易度等を考えながら解決方法を話し合うということである。また、「失敗」という誰もが経験のある身近な話し合いの題材とすることで、自分の経験や思いを心を開いて話したり、友達の話を自分の体験と照らし合わせながら聞くことを通して、共感的に聞く機会を持つことができると考える。

さらに、協議によって原因ごとに失敗をなくす方法を考えることを通して一人一人の考えが生かされ、よりよい考えや新しい考えを作り出すことができ、子どもたちに「自分の考えが役に立った」「話し合ってよかった」という成就感を持たせることができると考える。

○ 本単元の指導にあたっては、話し合いの目的や順序を確認しながら計画的に話し合うことができるようにするとともに、話し合うことが身近な問題を解決する有効な手段だ、と言うことを経験を通して理解させたい。

「つかむ」段階においては、ビデオを視聴させてこれまでの話し合いの経験を想起させ、モデル文を通して本単元でどんな話し合いの仕方を学習していくのかを考えさせる。その際に、モデル文を声に出して読む練習をしたり、話し合いの場面ごとにどんなことが話し合われているかを考えさせたりすることを通して、確実に理解できるようにしたい。

そして教師の話のモデルを通して、失敗がもとで誰かに迷惑をかけた体験について考えさせる。

「伝え合う」段階では、教科書の題材を使って、目的に向かって計画的に話し合う練習を行う。まず、前時に提示したモデルの体験を分類・整理している場面を使って失敗を原因別に分類し、それぞれの原因に小見出しを付けて整理する試しの活動を行わせる。次に、グループで自分たちの失敗の体験を出し合い、モデルを通して理解した方法をもとに原因ごとに分類・整理する。そして、モデルの該当する場面を通して、それぞれの原因ごとに解決方法を考えさせる。

このように、モデルを通してスモールステップで話し合いを経験させることを通して、目的に向かって計画的に話し合う手順について理解を深めていきたい。

「いかす」段階では、前時まで学習したことを生かして、話題を変えて話し合う。

その際に、掲示物を使って前時まで学習した話し合いの手順が確認できるようにするとともに、抽出児童によるモデル提示を通して、話し合いの手順を再確認させ、自信を持って話し合いを進めることができるようにしたい。

このような話し合い活動を繰り返し行わせることを通して、計画的に話し合えば自分たちの力で解決方法を見つけることができる、という経験をさせ、身近な問題を解決する方法として話し合うことの有効性を実感させたい。

こんなモデル・提示の仕方

- ビデオ
話し合いの仕方の問題点を明らかにするために、事前に録画しておいた別の議題で話し合っている様子を提示する。
- 音声CD
話し合いの手順を理解させるために、計画的に話し合っている様子を聞かせる。その際にモデル文を子どもたちに配布するとともに、話し合いの手順ごとに区切って提示し、どんな話し合いの場面か考えさせることと声に出して練習することをスモールステップで行う。
- 教師の話
話し合いの目的に合うような失敗の例を事実と感想を分けて話す。
- 教師の実演
失敗の体験を短い言葉で書いたカードを原因ごとに分類したり、小見出しを付けたりするところを子どもたちの発言を生かしながら行う。
- 抽出児童による話し合い
話し合い活動の途中で、手順に沿って話し合っているかを確認させるとともに、よりよい話し合いの参考にさせるために、数名の抽出児童による話し合いを提示する。教師はモデルの話し合いがどの段階かがわかるように掲示物を使って示したり、話し合いを止めて発言のどんなところがよかったかを確認する。

3 単元目標

- 話し合いの目的や順序を理解し、話題に沿って話したり、友だちの話を共感的に聞いたりすることができる。
- 目的に向かって計画的に話し合うことを通して、身近な問題の解決方法を見つけることができる。

4 学習指導計画（全5時間）

段階	配時	ねらい	学習活動	主な支援と留意点
つかむ	2 本時 1/5 504	○ 目的に向かって計画的に話し合う手順について理解させる。	<p>1 これまでの話し合いの経験を振り返ることを通して、本単元のねらいを確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ これまでの話し合い活動を振り返って、うまくいかなかった原因を考える。 <ul style="list-style-type: none"> ・話が逸れた ・みんなが発言しなかった ・話し合いの手順がわからなかった など ○ 計画的に話し合う方法について知る。 <ul style="list-style-type: none"> (1) モデル文を読む練習を通して、どんな話し合いの手順をしているのか考える。 (2) 体験を出し合う→整理・分類する→解決方法を考える、という話し合いの手順を確認する。 	<p>ビデオによるモデル提示</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 話し合いの様子をビデオで記録しておき、これまでの経験を振り返るときに提示する。 モデル文を提示する。 ○ それぞれの過程ごとに読む練習とどんなことについて話し合っているか考えることを繰り返し行う。
			<p>2 自分の失敗した経験を想起し、話し合いの準備をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 自分が失敗をした体験について話す具体的な内容や話し方についてモデル提示を通して確認する。 <ul style="list-style-type: none"> ・自分が失敗したことで誰かに迷惑をかけたという体験。 ○ モデル提示を通して気付いたことを「話し方のポイント」として確認する。 <ul style="list-style-type: none"> ・事象と原因を分けて話す。 ・聞いている人がわかっているか確認しながら話を進める。 ・聞き手の興味を喚起するようにタイトルを付ける。 <p>3 話し方のポイントをもとに、失敗談を話したり、学習プリントに記録したりする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 失敗談を何人か発表させ、話し方のポイントを押さえている子どもについて賞賛したり、足りなかった子どもに教師が付加したりすることを通して、どう話していいかを理解させる。 <ul style="list-style-type: none"> ・話し方のポイントを押さえて話せた子の賞賛。 ・うまく言えなかった子への補足と助言。 	<p>教師の話によるモデル提示</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 教師がモデル提示を行い、子どもたちが共感的に聞ける内容になるように配慮する。 ○ 子どもたちの活動と同様に話のタイトルをカードに書いて掲示する。 ○ 話す内容を全文掲示して、話し方のポイントに気付かせる一助とする。 ○ 聞き手に分かりやすく、興味を引くような話し方のポイントを発表させる。 ○ 話し方のポイントをキーワード化してカードに書いて掲示する。 ○ 2～3人発表させることを通して、子どもたちに「自分たちでもできる」という気持ちをもたせるとともに、活動に対する期待をもたせる。
伝え合う	2 本時 3/5 502 503	○ 目的に向かって計画的に話し合う練習をすることができるようにする	<p>4 教科書の例をもとにして、話し合いの手順を確かめるとともに、意見を分類・整理する練習をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 前時の学習を振り返り、話し合いの手順を確認する。 <ul style="list-style-type: none"> ・体験を出し合う→失敗の原因を整理・分類する→原因ごとに解決方法を考える、という手順。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 話し合いの手順を掲示する。

<p>伝え合う</p>			<p>○ モデルを通して、分類・整理の仕方を確かめる。 (1) 黒板に貼付したカードを操作して分類する。 (2) 原因ごとに小見出しを付けて整理する</p> <p>○ 自分達の失敗の体験を分類・整理する話し合いをする。 (1) カードを操作して失敗の原因ごとに分類する。 (2) 分類したらどんな原因の仲間なのか小見出しを付けて整理する。</p> <hr/> <p>○ モデルを通して、解決方法の話し合いの手順を理解する。 ・モデル文から話し合いのポイントを見つける。</p> <p>○ 自分達の失敗の解決方法について話し合う。 ・話し合いのポイントが使えたか確認する ・解決方法が見つかったか確認する。</p>	<p>教師の実演によるモデル提示</p> <p>○ 分類する観点を明らかにする。 ○ 前時の学習プリントをもとに、原因が分類できて話し合いの進行ができるようなメンバーを考慮して、グループを作っておく。 ○ 話し合いが進まないグループは教師が進行役となる。</p> <hr/> <p>モデル文の提示</p> <p>○ モデル文を声に出して読ませることを通して、ポイントとなる言葉や手順を理解させる。</p> <p>○</p>
<p>いかす</p>	<p>1 本時 5/5 501</p>	<p>○ 学習したことを生かして計画的に話し合うことができるようにする。</p>	<p>5 学習したことを生かして、話題を変えて計画的に話し合う。 ○ 前時までの学習を想起する。 ・意見を出し合う→整理・分類する→解決方法を考える、という話し合いの手順を確認するとともに、このような手順で話し合えば解決方法を見つけることができた、という体験を想起させる。 ○ モデル提示を通して、よりよい話し合いのイメージをもたせる。 ・話し合いの道筋の確認 ・話し合いの手順の再確認と価値付け ・自信と意欲をもたせる</p> <p>○ モデルを見て学んだことをもとに、「2学期の係活動を楽しく活発にするためのアイデア」について話し合いを行う。 ・話し合いの手順を確認する。 ・時間配分や役割を確認する。</p> <p>6 単元を通して振り返り、学習のまとめをする。 ○ 各グループで話し合ったことを報告する ・前時に示した報告の仕方と発表する。</p> <p>○ 話し合いのポイントについて自己評価する。 ・計画的に話し合いが進められたか。 ・解決方法を見つけることができたか。</p>	<p>○ 前時に行った話し合いの手順を掲示物にし、常掲して子どもたちが活用できるようにする。</p> <p>○ 話し合いのポイントとなる言葉が出た際には、モデルの話し合いを止めて確認する。</p> <p>○ 話し合いが停滞しているグループに教師が進行役で入って、話し合いの様子をモデルとして提示する。 ○ 一定時間話し合いをさせ、計画的に話し合いが進んでいるか確認する。</p> <p>○ 停滞している子どもには、前時のモデルを活用して発表するよう助言する。</p> <p>○ 学習プリントに選択と記述で自己評価させる。 ○ 「話し合ってよかった」「話し合うことで身近な問題を解決することができた」という成就感をもたせる。 ○ 単元を振り返ってこれからも話し合いを問題解決の方法として活用していくように助言する。</p>

5 本時 (1 / 5)

6 本時の目標

- これまでの話し合いの経験を振り返り、目的に向かって計画的に話し合うことの大切さを理解することができる。
- モデルを通して、計画的な話し合いの方法を理解することができる。

7 本時指導の考え方

本時はこれまでの話し合いの経験を見直し、目的に向かって計画的に話し合いを進めることの大切さを理解することを目的としている。その際に、話し合いがうまくいかなかった理由を考えさせることを通して、どんな話し合いを目指すのかを浮き彫りにしたい。また、モデル提示を通して、話し合いをどのようなステップを踏んで進めていくのがよいかや話し合いを円滑に進めていく態度が表れた言葉に気付かせ、一人一人の考えを大切にしていって結論を見いだす話し合いをするという話し合いの目的と方法を理解させたい。

本時は単元の導入の時間である。ここではまず、子どもたちにこれまでの話し合い活動の経験を振り返らせ、話し合いがうまくいかなかった経験からその原因を考えさせることを通して、どのような話し合いを目指せばよいかイメージを持たせるようにしたい。そのために、事前に2学期当初の学級活動で「係活動を活発にする方法」について話し合いの経験をさせ、その様子をビデオで記録しておき、よくない話し合いの仕方のモデルとして提示する。モデルを視聴しながら話し合いの様子を振り返り、話し合いの方法がはっきりしていなかった、次第に話が逸れてしまった、一部の発言者の考えで話し合いが進んでしまった、話し合いに参加する気持ちが欠けていた、などの問題点に気付かせ、どんな順序で話し合ったらよいかやみんなが積極的に参加できるような話し合いの仕方はどうすればよいかなどの課題を導き出したい。

次に、教科書付属のCDの台本をよい例のモデルとして提示する。その際に、子どもたちに台本をコピーして子どもたちに配布し、声に出しながら練習できるようにする。本単元の話し合いの過程は次のようなことである。

- ①失敗を減らす方法を考えるという目的のために、②～④のような順序で計画的に話し合うことを確認する。
- ②一人一人が体験を出し合い、具体例を集める。
- ③集めた具体例の共通点を集め、失敗談をいくつかの方に分類・整理する。
- ④失敗を減らす方法について、型ごとに意見を出す。

子どもたちに今回の話し合いがこのような過程を経ることと、それぞれの過程でどのようなやり取りが行われているか、ということを理解させるために、過程ごとに役割を決めて声に出して読む練習をし、その後どんなことについて話し合っているか考えさせる。そして、子どもたちの発言から出てきた言葉を使って、①～④の過程のキーワードをカードに書いて掲示する。さらにその過程において何について話し合っているのかを理解した上で、もう一度役割を変えて声に出して読む練習をする。このように、話し合いの一つ一つの過程を丁寧に声に出しながら確認することを通して、子どもたちは実際の話し合いで練習したことを活用できるのではないかと考える。

そして、「今日の学習で」を通して、①～④の話し合いの過程が理解できたかを自己評価させる。その際に、本時の学習で学んだことを振り返られるように板書を整理するとともに、「今日の学習で」に①～④の話し合いの過程を理解したかや本時で学んだことが次時に生かせるかなどについて記述させる。

8 準備

- 教師 話し合いの様子を記録したビデオ
付録CDの台本コピー、キーワード記述用色画用紙
- 子ども 学習プリント

9 本時の展開

主な学習活動	主な支援と留意点
<p>1 本時のめあてを確認する。</p> <p>(1)これまでの話し合い活動を振り返り，問題点を話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・話し合いの方法がはっきりしていなかった ・話が逸れてしまった ・一部の人しか発言しなかった ・積極的に話し合いに参加しなかった <p style="text-align: right;">など</p> <p>(2)本時のめあてを確認する。</p>	<div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; text-align: center; margin-bottom: 10px;"> ビデオでモデル提示をする </div> <ul style="list-style-type: none"> ○ 事前に「係活動を活発にする方法」という題材について話し合わせ，その話し合いの様子をビデオで記録しておき，よくない話し合いのモデルとして提示する。 ○ 個々の発言の良否ではなく，話し合いの手順や参加の態度などの「話し合いの仕方」に目を向けて振り返るように，このときの自分はどんな気持ちで話し合いに参加していたかを考えさせる。
<p>めあて</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin: 5px auto; width: 80%;"> <p>目的に向かって計画的に話し合う手順を知ろう。</p> </div>	
<p>2 モデル文を通して，次の①～④話し合いの手順を知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ①話し合いの目的や順序を確認する。 ②一人一人が体験を出し合う。 ③いくつかの方に分類・整理する。 ④型ごとに意見を出す。 <p>(1)グループで役割分担をし，読む練習をする。</p> <p>(2)どんな話し合いをしている場面か考える。</p> <p>(3)話し合いの手順を確認する。</p> <p>3 「今日の学習で」を通して，自己評価をする。</p> <p>(1)話し合いの手順を短い言葉でプリントに書く。</p> <p>(2)今日学習したことをどのように今後の話し合いに生かすかを考えて，本時の感想を書く。</p>	<div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; text-align: center; margin-bottom: 10px;"> モデル文を提示する </div> <ul style="list-style-type: none"> ○ モデル文を印刷して子どもに配布する。 ○ それぞれの過程において，実際に声に出して読ませることを通して，どんな話し合いの場面かに気付かせる一助とする。 ○ それぞれの過程において，(1)～(2)の活動を繰り返すことを通して，話し合いの手順に気付かせる。 ○ 話し合いの手順を板書し，(「目的や順序を確認する」，「体験を出し合う」，「分類する」，「型ごとに意見を出す」) 子どもが確認できるようにする。 ○ 子どもたちが本時で学んだ話し合いの手順を振り替えられるように，板書を整理しておく。 ○ 数人の子どもに感想を発表させ，話し合いへの意欲を賞賛する。

5 本時 (3/5)

6 本時の目標

- 分類・整理を意識して話を進めることで、失敗談の原因を話し合うことができる。
- モデル文をタイトル化し、分類・整理することを通して、話し合いの方法を理解することができる。

7 本時指導の考え方

本時は、失敗談にタイトルを付け、失敗の性質に着目して共通点を見つけ、分類・整理を行ない、それぞれの原因を明らかにするための話し合いを進めることを目標としている。その際に、モデル文を使って実際に分類・整理をおこない、分類・整理に大切な技能に気付かせ、自分や友達の失敗談の原因を探る話し合いに生かせるようにしていきたいと考えている。

前時子どもたちは、「自分の失敗」を想起し、一件ずつ学習プリントに記入し、「自分の失敗」を解決したいという意欲をもっている。しかし、一次でのモデル文を使った学習では話し合いの進め方が分かっただけであり、これまでの児童の実態から目的をもった話し合いの経験は多くなく、まして全員が自分の考えを出し、話し合いに参加できているとはいえない。

そこで、本時の学習めあてとして「全員が自分の考えを出し、失敗談を分類・整理する話し合いをしよう。」を確認し、学習を進めていくこととする。

まず、「モデル文」を使ってクラス全体で実際に分類・整理する練習をする。この練習を通して、具体的な話の進め方や方法、話を進めるための技能が確認でき、グループでの話し合いに活かせる考える。

その際、掲示した「モデル文」と「タイトル名」を比較させることで、文章が長いと内容が分かりにくく、タイトル化すると一目で内容が分かることに気付かせていく。次に、黒板に掲示したタイトルカードを失敗の原因の共通点に着目して並び替え、原因ごとにいくつかの型に分類していく。これらの活動を通して、タイトルカードは、操作・分類に便利なことに気付かせ、タイトル化することのよさを実感させる。

この際、分類・整理に必要な技能をキーワード化し板書として残し、続いてのグループの話し合い活動に生かしていけるようにする。

失敗談の原因を探るグループでの話し合い活動では、話し手には、体験が聞き手に分かりやすく伝わるように、事実と感想を区別して話し、聞き手の反応を確かめながら話すことを。一方聞き手には、話し手が話しやすいように、話に集中し似た経験はないか考えながら聞くように促す。

さらに、このグループでの話し合いでは、話し合いの目的を意識しているか、話し合いの手順を踏んでいるか、進行を意識しているかなどの観点で話し合いの様子を伺い、振り返りの場面での賞賛に生かしていきたい。

本時のグループの設定にあたっては、前時に記入した失敗の体験談を基に具体例に偏りがないように配慮した4人～5人の少人数でグルーピングを行なっておく。この少人数でのグルーピングは、自分の失敗を安心して説明でき、自分の順番も保障され、これからの話し合いに積極的に参加しようという意欲につながると考える。

話し合い活動のまとめでは、キーワード化した技能を生かしたか、どのような共通点で分類・整理したか、どのような原因があったかを全体の中で出し合い、話し合いが上手く進められたことを賞賛していく。

最後に今日の学習をふり振り返り、グループ内での個々の活躍を認め、次時学習への意欲を高めることとする。

8 準備

- 教師 学習プリント、付箋紙、モデル文のカード、短冊カード
- 子ども 油性ペン

9 本時の展開

主な学習活動	主な支援と留意点																								
<p>1 前時学習を振り返り，本時めあてを確認する。</p> <p>(1) 話し合いの進め方を確認する。</p> <p>①失敗談を出し合う</p> <p>②具体例を集める</p> <p>③具体例の共通点をまとめる</p> <p>④失敗談を分類・整理する</p> <p>⑤失敗を減らす方法を考える</p> <p>(2) めあてを知る。</p>	<p>○ 前々時学習で立てた単元全体の計画を提示し，本時学習の進め方の確認に生かす。</p> <p>○ 話し合い活動に直ちに取りかかることができるように，前時に準備した児童の失敗談を基に，事前にグルーピングをしておく。</p>																								
<p>めあて 全員が自分の考えを出し，失敗談を分類・整理する話し合いをしよう</p>																									
<p>2 「モデル」から，目的をもった話し合いの進め方について考える。</p> <p>(1) クラス全体で「モデル文」の失敗談から，タイトル化・分類・整理の練習をする。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <table border="0" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 20%; border: none;">《失敗談》</td> <td style="width: 20%; border: none;">《タイトル》</td> <td style="width: 20%; border: none;">《原因》</td> <td style="width: 40%; border: none;"></td> </tr> <tr> <td style="border: none;">「出かけた…」</td> <td style="border: none;">→ シャンプーを…</td> <td style="border: none;">}</td> <td style="border: none;">うっかり忘</td> </tr> <tr> <td style="border: none;">「電車に…」</td> <td style="border: none;">→ 切符をどこに…</td> <td style="border: none;">}</td> <td style="border: none;">れの失敗</td> </tr> <tr> <td style="border: none;">「干して…」</td> <td style="border: none;">→ 毛布を取り込む…</td> <td style="border: none;">}</td> <td style="border: none;">確かめなし</td> </tr> <tr> <td style="border: none;">「公園の…」</td> <td style="border: none;">→ 待ち合わせ場所…</td> <td style="border: none;">}</td> <td style="border: none;">準備不足</td> </tr> <tr> <td style="border: none;">「活動報告…」</td> <td style="border: none;">→ メモを用意…</td> <td style="border: none;">}</td> <td style="border: none;"></td> </tr> </table> </div> <p>(2) 分類・整理の方法を確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・失敗談のタイトル化 ・失敗の共通点に着目 ・タイトルカードの操作 <p>3 グループ毎に練習を生かし，話し合う。</p> <p>①自分の失敗談をタイトル化する</p> <p>②失敗談を聞き合う</p> <p>③失敗談を分類する</p> <p>④いくつかの型に整理する</p> <p>4 話し合いの報告をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・タイトルカードを使うと整理しやすい ・共通点を見つけたので，分類できました ・この失敗の原因は，〇〇でした <p>5 「今日の学習」を振り返り，次時について知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・目的をもった話し合いができたので，次の話し合いも楽しみだ ・グループ全員で話し合っ，よい解決方法を見つけるぞ 	《失敗談》	《タイトル》	《原因》		「出かけた…」	→ シャンプーを…	}	うっかり忘	「電車に…」	→ 切符をどこに…	}	れの失敗	「干して…」	→ 毛布を取り込む…	}	確かめなし	「公園の…」	→ 待ち合わせ場所…	}	準備不足	「活動報告…」	→ メモを用意…	}		<p>○ モデルを使った練習がスムーズに行くように，「モデル文」の会話を吹き出して表し，タイトル名を記入したカード，原因を記入したカード等を準備し，操作活動に生かす。</p> <p>○ 練習を通して実感した話し合いの進め方，使うと有効だった技能をキーワード化し，グループ毎の話し合い活動に生かせるようにする。</p> <p>○ 失敗談をタイトル化できないでいる児童には，練習で使った板書に立ち返らせ，個別に支援していく。</p> <p>○ 話し合いの断片だけをとらえて指導することがないように，児童の表情や声のトーン等もしっかり把握していく。</p> <p>○ 話し合い活動に積極的に取り組もうとする声を取り上げ，次時の意欲へとつなげるようにする。</p>
《失敗談》	《タイトル》	《原因》																							
「出かけた…」	→ シャンプーを…	}	うっかり忘																						
「電車に…」	→ 切符をどこに…	}	れの失敗																						
「干して…」	→ 毛布を取り込む…	}	確かめなし																						
「公園の…」	→ 待ち合わせ場所…	}	準備不足																						
「活動報告…」	→ メモを用意…	}																							

5 本時 (5 / 5)

6 本時の目標

- 話し合いの手順を確認しながら、協力して計画的に話し合うことができる。
- 話し合いの手順を理解し、別の話し合いの場面でも生かしていこうとする意欲をもつことができる。

7 本時指導の考え方

本時は、本単元の「いかす」段階にあたる。本単元は、高学年の話し合うことに関する指導事項の中の、「計画的に話し合うこと」に関わる単元であるが、前時までに目的から外れない話し合いにするために、スモールステップで話し合いをしながら、①具体例を出し合い、②分類・整理し、③解決方法を考え、④まとめ報告する、という「計画的に話し合う」ための手順を確認してきている。

本時は、その手順を生かし今度は新しい話題で話し合いをしてみようという時間であり、実際の話し合いの活動を通して、「話し合う手順にそって話し合うことは有効だった」という計画的に話し合うことの価値を実感させることをねらっている。また、話題は、学級活動で出された1学期の係活動の反省をつなげて、「2学期の係活動を楽しく活発にするためには」とし、子どもにとって切実感のある話し合いができるようにする。

導入では、再度、前時までの話し合いの手順をカードで掲示し確認をしたあと話題とめあてを提示するが、本時は新しい話題での話し合いとなるため、いくつかのつまずきが予想される。それは、本時は前回と違いスモールステップをふまない実地演習となること、そしてどんな具体例を出せばよいのか難しいこと。そこで、話し合いのイメージをもたせるために、数名の抽出児童による話し合いをモデルにして、それを他の児童全員が見るという場面を設定する。その意味は、①話し合いの道筋の参考にさせる、②話し合いの手順の再確認と価値付けをする、③モデルとなった児童に自信と意欲をもたせる、ことである。このとき、出し合う具体例を「係活動がうまくできなかったわけ」「係活動がうまくできたわけ」とすればよいことを助言し、話し合いの道筋を与えるようにしながら、モデル児童による模擬話し合いを進めていく。

モデル児童の話し合いを見たあとは、実際にグループでの話し合い活動に入る。教師は各グループの話し合いの様子を見ながら適宜助言を加えていくが、できるだけ児童の話し合う力を見守っていき姿勢を大切にす。どうしても支援が必要であるグループがあった場合は、話し合いに教師が加わって話し合いの方向付けをしてやるようにする。また話し合いの途中で、まとめ役はいるか、グループの意見をまとめ始めているか、時間内に終わりそうかなどを確認しながら、話し合いの見通しを立てやすくしてできるだけグループで意見をまとめることができるようにさせる。

話し合い後は各グループでどのように意見がまとまったのかの報告をさせる。前時で学習した報告の仕方を参考に報告できることを期待するが、難しそうな児童には前時に掲示した報告の仕方のモデルを活用し助言を行うようにする。

各グループから報告された「2学期の係活動を楽しく活発にするためのアイデア」は教師が板書しまとめ、次回の学級活動の時間に採りあげたいアイデアを全員で話し合うという活動につなげていく。次回行う学級会はグループではなく全員で行うことを確かめ、全員で話し合うときも同じ手順で話し合えば話し合いは成功するだろうという予想をもたせ意欲を高める。

最後は学習の振り返りをして話し合い活動に対する自信をもたせるようにする。

8 準備

- 教師
掲示用カード・付箋紙
- 子ども
学習プリント

9 本時の展開

主な学習活動	主な支援と留意点
<p>1 前時までを想起し、話し合いの手順を確認する。</p> <p>2 本時のめあてと話題を確認する。</p>	<p>○ 計画的に話し合いができるように、話し合いの手順とポイントを確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・具体例を数多く出し合う。 ・似たようなものに分類する。 ・解決方法を考える。 ・意見をまとめて報告をする。 ・まとめ役がいる。 <p>○ 前時とは話題を変え話し合い活動への期待感、切実感をもたせる。</p>
<p>めあて _____</p> <p>グループで話し合っ、意見をまとめよう。</p> <p>話題 「2学期の係活動を楽しく活発にするためには」</p>	
<p>3 モデル児童の話し合いを見る。</p> <p>4 グループで話し合いをする。</p> <p>(1) 話し合いをする。</p> <p>(2) 話し合いの進行状況を確認する。</p> <p>(3) グループでまとめた意見を報告する。</p> <p>5 自己評価をし、学習のまとめをする。</p>	<p>○ 自薦、他薦により児童を抽出し、その児童数名で模擬話し合いをさせる。他の児童には、その話し合いを見せることで話し合いの進め方の参考にさせる。</p> <p>○ どんな具体例を出し合えばよいかを助言し話し合いの道筋を立ててやるようにする。</p> <p>○ モデル児童の話し合いで、ポイントとなる言動が見られたときは、教師が同時進行でそのポイントを強調し、見ている児童に分かりやすく示すようにする。</p> <p>○ 計画的に時間配分ができるように「○分後に報告する」ことをあらかじめ言うておく。</p> <p>○ 話し合いの途中で、話し合いがスムーズに進んでいるかの確認をし、滞っているグループには後半教師も参加し話し合いの整理・修正を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・まとめ役がいるか ・グループの意見をまとめ始めているか ・時間内に終わりそうか <p>○ 報告の仕方のモデルを活用させ、抵抗なく報告できるように助言する。</p> <p>○ 次回の学級会へつなげるため、グループの報告を教師が板書する。</p> <p>○ 次回は全員で学級会を設けることを伝え、その話し合いの場面でも同じ手順で話し合えそうだということを確認し話し合いへの期待と意欲を高めると同時に、自己評価をし話し合い活動への自信をもたせる。</p>